



つながり つむぐ

☆☆☆☆☆☆☆☆ 「えべつ型コミュニティ・スクール」

令和7年6月20日
第57号
江別市教育委員会
総務課・学校教育課

小・中の先生方が同じゴールに向かって連携・協働 ～野幌中学校区小中一貫教育合同研修会～

5月の連休明けから各中学校区で全体会議や合同研修会等が開催され、令和7年度の小中一貫教育が本格的に始動しています。会議・研修会では、4月22日（火）の小中一貫教育担当者会議での協議・確認内容等を踏まえ、中学校区の小中一貫教育の目指す子ども像やグランドデザインについての共通理解を図り、タイムマネジメントに位置付けられている具体的な取組等について、熱心な協議が行われています。

野幌中学校区では、5月8日（木）に野幌小、東野幌小、野幌若葉小、野幌中の教職員が一堂に会し、特別部会と教科部会に分かれて今年度の取組について協議・検討を行いました。

特別部会は8部会構成となっており、主に「目指す子ども像」の具体的な指標となる「サブ目標」の1つ目「夢や目標を持っている児童生徒が85%以上」の達成に向けた各種の取組の企画・実施等を進めていくことになっています。主な協議内容は以下の通りです。

特別部会の部会名	協議内容
学力向上部会	学習における基礎基本の定着を目指した標準学力検査結果の分析、9年間の一貫した指導（学習スタンダード）の定着と対策
教育課程部会	ICT等による情報活用能力を高め、探究心や自信を育てる
児童生徒交流部会	先を見通した活動、児童生徒の相乗的・補完的な活動の工夫
児童生徒指導部会	活気と安心感のある野幌中学校区を目指した一貫した指導（挨拶運動、生活スタンダード等）と児童生徒交流
特別支援教育部会	多様な児童生徒の実態交流や対応の交流
養護教諭・栄養教諭部会	保健室利用状況を含めた児童生徒の実態交流
CS・PTA部会	CSやPTA活動の情報交流、人材バンクの交流と検討
事務部会	予算運用に関わる情報交流、検討

教科部会は、教科ごとに発達段階に応じた目標を検討し、「系統的な指導」や「一貫した指導」を進めながら児童生徒の課題を解決していくことを目指して、今年度から新たに設定されました。9つの教科に加えて特別支援教育の「自立部会」と「生活単元部会」が作られ、11の部会で児童生徒の資質・能力の向上を図っていくこととしています。

野幌中学校区では、昨年度までの成果と課題を踏まえ、他の中学校区の取組も参考にしつつ、小中一貫教育の進化・改善を着実に図っています。



特別部会 学力向上部会



教科部会 国語部会



教科部会 理科・生活科部会

中学校区で「地域とともにある学校」づくり

～江陽中学校区の合同学校運営委員会開催～

5月20日（火）に江陽中学校区（豊幌小・江別太小・江陽中）で初めての「えべつ型コミュニティ・スクール」の合同学校運営委員会が開催されました。

江陽中学校区では、元々、PTA 活動やおやじの会、見守り隊、児童生徒の安全に関する会議等による学校と地域の連携が進められてきました。さらに、平成29年の「えべつ型CS」の導入以降、学校ごとに学校運営委員会が設置され、各校の学校経営方針や学校関係者評価の承認、学校運営や学校支援の方向性に対する意見反映等が行われるようになりました。

今回は、令和5年度から本格導入された小中一貫教育と連動した取組として、初めて3校合同の学校運営委員会を開催することになりました。江陽中学校区では、既に小学校と中学校の両方で学校運営委員を務めている方もいて、小中一貫教育の視点から学校経営方針や教育活動についてご意見等をいただいていた。

また、江陽中 CS では、令和4年度に「小中合同新体カテスト」の様子を学校運営委員の方々に参観していただく取組も行っていました。

合同学校運営委員会では、各学校の経営方針等に加えて、「小中一貫教育グランドデザイン」についても説明が行われ、3つの CS 内での共通理解が図られました。

また、学校ごとに分かれた委員会も開催され、委嘱状の手交や経営方針等の承認、熟議等が行われました。熟議の中では、「高校との連携」「通学路の安全」等の話題で熱心な話し合いが行われました。全体としては終始なごやかな雰囲気の中で委員会が進み、江陽中学校区ならではの学校と地域の関係性が感じられる合同学校運営委員会の開催となりました。



経営方針等を説明（江陽中）



委嘱状の交付（豊幌小）



熟議を進める（江別太小）



中学生の授業を参観

小中一貫教育を通して特別活動の充実を図る

～児童会と生徒会合同の挨拶運動が子どもの自主性を育む～

5月9日（金）に第一中学校区と第三中学校区、6月4日（火）に第二中学校区で児童会と生徒会合同の挨拶運動が行われました。小中一貫教育の導入以降、継続して取り組んでいる活動で、中学校区の挨拶の輪を広げるとともに、小中が連携して子どもたちの自主的・自治的な姿勢を育む取組となっています。また、小学校低学年の子どもたちにとっては、児童会・生徒会の役員が自分の目標（なりたい自分）となっています。

【子どもたちの感想】

※第二中校区

小学生…「中学生のみなさんのすてきなあいさつが勉強になったので、次のあいさつ運動では教えてもらったことを生かして、もっとすてきなあいさつができるようにしたいです。」

中学生…「中学生も小学生の明るい笑顔の挨拶をお手本にしたいと思いました。小学生の皆さんは、これからもっと笑顔の挨拶を増やしていってけると嬉しいと思います。」



第一中校区挨拶運動



第二中校区挨拶運動



つなぎ つむぐ

☆☆☆☆☆☆☆☆ 「えべつ型コミュニティ・スクール」

令和7年6月20日
第58号
江別市教育委員会
総務課・学校教育課

学校と地域が熟議を通して目指す子ども像を共有

～えべつ型コミュニティ・スクール…学校運営委員会～

「つなぎ つむぐ」第56号、第57号でも紹介しました通り、5月7日(水)の北光小CSを皮切りに、令和7年度の第1回目の学校運営委員会が各CSで開催されています。

委員会での主な協議内容は、委員長・副委員長の選出、令和7年度の学校経営方針及びグランドデザインの承認、小中一貫教育の「目指す子ども像」と取組、児童生徒の年度当初の活動の様子、学校支援ボランティアの活用の方性等となっており、議題を焦点化して熟議も行われています。

野幌若葉小CSでは、授業参観日に合わせて第1回学校運営委員会を開催し、酪農学園大と連携した農園活動等の授業を委員の方々に参観していただき、具体的な教育活動の様子を知っていただくように工夫をしていました。同じように、他のCSでも、学校運営委員の方々に学校運営の状況についての意見をいただくために、運動会や体育祭、学芸発表会、文化祭、参観日等の行事に参加していただき、子どもたちの姿を参観していただいています。



第一小CS 熟議の様子



授業を参観する野幌若葉小の委員の方々



上江別小CS 熟議の様子



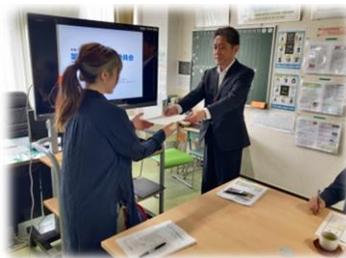
大麻中CS 熟議の様子



いずみ野小CS 熟議の様子



文京台小CS 熟議の様子



大麻西小CS 委嘱状手交

令和7年度の本校の学校運営委員会の様子です。

クリックすると話し合いの内容が見られます。

第1回学校運営委員会 令和7年5月22日(木) 13:00~14:25 7名参加 場所:会議室



5/22(木) 第1回学校運営委員会

学校のホームページに掲載されているCSの情報
大麻西小CS→
←野幌若葉小CS

令和7年度 第1回 学校運営委員会

5月22日、本校校長室にて、えべつ型コミュニティ・スクール第1回学校運営委員会が開催されました。
初めに学校長から、学校経営方針や今年度の重点、大麻中学校区の小中一貫教育についての説明を行うとともに、大型テレビに本校の学校ホームページを映し出し、4月からの子どもの生活の様子を基にした学校の取り組みについて説明を行いました。
その後、教頭からは、今年度の学校評価の流



れや評価項目、達成するための手立て等について説明し、ご質問いただきました。
その後、委員の皆さんと熟議を交えた意見交換を行いました。たくさんのご意見、ごましの言葉をいただき、今後の学校運営に活かしてまいりたいと思います。

次回の開催は、9月11日(木)を予定しています。

【委員の皆さんからいただいた意見の一部を紹介】

- 子どもたちの一人一台端末の活用はどのような状況なのか。(※教頭より、子ども達の日常的な活用の様子や先生方による業務での活用について説明) これからの子どもたちは、ICTを使いこなしていかないと困る時代になっている。ぜひ次期、授業で子ども達が取り組んでいる様子も見せてもらいたい。
- 不審者が学校に侵入する事件もあつぱり、学校ではどのような対策を行っているのでしょうか。(※校長より、中学校区でも月に開催する不審者対応研修について、教頭より、危機管理マニュアルにおける教職員と行った不審者対応についての研修について説明) ぜひ、先生方だけでなく、先生方が他の対応ですぐに動けないときに、子ども達にもAEDがどこにあるのかや、緊急時に助けを呼ぶ方法なども伝えてもらえるとありがたい。

2つの中学校区が連携して子どもたちを育てる

～第一中学校区と第三中学校区の 小中一貫教育合同研修会～

第57号の野幌中学校区と同様に、他の中学校区でも小中一貫教育にかかわる全体会議や合同研修会等が開催されています。

第一中学校区と第三中学校区は、第一小が2つの中学校へ分散進学するため、「目指す子ども像」や「スタンダード」の共通化を図る等、昨年度から一緒に取組を進めてきました。今年度も、5月21日（水）に1回目の中学校区研修会を合同で開催し、教科部会と特別部会に分かれて熱心な協議を行いました。協議内容は右記のようになっており、どの部会も、子どもたちの姿を思い浮かべながら、建設的かつ有意義な話し合いが行われました。



「第一中学校区と第三中学校区合同の部会協議の様子」



第1回小中合同研修会において、どの部会においても積極的かつ建設的な話し合いがなされ、令和7年度の取組や方向性を確認する有意義な時間となりました。各部会で話し合われた内容をまとめましたので、ご確認ください。

【第1回合同研修会の交流内容】

部会	①交流内容	②第2回合同研修会向けに向けの確認内容
国語	・小学校：ふりかえりの場面でICTを活用する、全体交流のときICTの一貫性を活用する ・中学校：各単元で自分の意見を書く活動を設定する、定期テストで記述問題を出して定着度をみる	①各校で実際に取り組んだことの交流（CanvaなどICTの実践を含む） ②NRT標準学力検査の結果交流
算数・数学	・四則計算についての各校における実践交流 ・重点項目について、小学校中学校共通であるNRTなどの結果を用いて検証 ・論理的に表現することについては、読解力が重要であること。読解力には言葉や文章の読解が必要。言葉覚えるにはその必要性がない子どもは身に付けにくい。そのため説明したりする力の育成には、まずそこからどう始めるのか課題である。	・取り組んできたことの検証ができる結果を持ち寄る
社会	・「系統的な指導に関わる部分」について ・都道府県とその位置…3年前から小中中で取り組んできたことにより、中学校での学習に生かされ、成果として表れてきていると感じる。⇒今後も継続的に指導していくことが大事。 ・都道府県の特徴について系統性を意識して指導する…年表を意識し、地図帳を活用するなど、地理学習・歴史学習に生かしていく。⇒今後も継続的に指導していくことが大事。	・各学校での効果的なICT活用について交流する。
理科	・重点単元（状態変化、光・音、細胞・生殖・成長、天気）に入ったら、「スマイルネクスト」などを使って、小学校ではまどめを中学校では復習を行う。	・「スマイルネクスト」などを活用して、各校取り組んでみた様子の交流を行いたい。

「第一・第三中学校区 小中一貫だより NO.2」より抜粋

取組のフラッシュアップ！進化を続ける第二中学校区

～第1回小中ブロック研修会～

第二中学校区（第二小、第二中）は、小中一貫教育のモデル校区として、他の中学校区よりも1年早く小中一貫教育を本格実施しており、今年度で4年目の取組となっています。現在の中学1～3年生は小学校の時から小中一貫教育を経験してきた子どもたちです。そのため、目的や目標を明確にしつつ、子どもたちにこれまでの経験を発揮させることで教育活動をより充実させ、「目指す15歳の姿」の実現に迫っていくことを今年度の重点としています。そのスタートとして、小中の教職員が一堂に会し、今年度の取組について協議する研修会を開催しました。

今年度は、改訂した「サブ目標」を達成するために各種取組のフラッシュアップを図っていきます。

二中校区 これまでの経過



- H29～R3 小中連携 グランドデザイン(サブ目標)の設定
- R4 小中一貫教育モデル校区として実践スタート 教科部会を設定
- R5 小中一貫教育2年目 市内全域で一貫教育導入 系統表・年間計画の作成
- R6 小中一貫教育3年目 共同テーマでの校内研究 サブ目標の見直し
- R7 小中一貫教育4年目 各取組に具体的な目標を→GD見直しの検討

「第二中学校区第1回小中ブロック研修会資料」より抜粋

【保護者・地域版】



第二中学校区（第二小、第二中）では、令和4年度から小中一貫教育に取り組みました。今年で4年目となり、中学生全員が、小学生時に一貫教育の取組を経験した生徒となりました。子どもたちはこれまでの経験を生かし、教職員はこれまでの成果を深化させた一貫性・連続性のある教育活動を充実させ、子どもたちの成長と「目指す15歳の姿」の実現に向けて取り組んでいきます。保護者・地域の皆様には、引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。

めざす子ども像

義務教育9年間を終える15歳の姿を第二中学校区「小中一貫教育」のゴールとして位置づけています。	社会で生きる基礎的な知識・技能を身につけている15歳	めざす15歳の姿	思いやりの心もち、人と協働できる15歳	未来を見据え、自ら努力し続けることができる15歳
---	----------------------------	----------	---------------------	--------------------------

教育課程のつながり

校種間で連携し、教育課程のつながりを意識した教育活動に取り組んでいます。例えば、各種調査の結果を交流し、互いに児童生徒の良さを把握して指導ができるようにしています。また、総合的な学習の時間では『共生～50's』を小中共通のテーマに設定して学習を進め、交流を図っています。さらに、小中の教員合同で作成した各教科の系統表を活用することで、より深いつながりがある教育課程を目指しています。

教員のつながり保護者・地域とのつながり

小中ブロック研修会や合同教科部会などを通して、小中一貫教育に関わる各業務の担当者同士が気軽に連絡を取り合って連携・協働できる関係づくりを目指しています。

【小中合同会議1回目】5月21日(水)実施

小中の教職員が、新年度新しいメンバーになって初め顔を合わせる機会となりました。全体会では、二中の高橋校長から子どもを真ん中にしたより効果的な取組について、二中の田中校長から9年間を過ごして子どもを育てる自走式の取組についての話がありました。分科会では、めざす姿を意図した具体的な取組についての話し合いが行われました。これからの活動を効果的に進めるための土台を作ることができました。



保護者・地域とのつながり

例年、保護者向けに「よくわかる江別二小・二中」という生活や学習のきまり・行事などを一覧にまとめたものを作成しています。小学校から中学校になって変わることも、変わらないことも確認することができます。

また、学校運営委員会は、江別第二中学校区の学校運営委員会として小中統一して実施しています。



「第二小中一貫教育通信第1号」より抜粋